

グラフで見る関西経済(2021年11月)

2021年11月29日

調査部 主任研究員 塚田 裕昭

今月の景気判断 ~持ち直しが一服

【今月のポイント】

- 生産(9月)は3ヶ月連続で減少。電子部品デバイス、汎用・生産用・業務用機械などが減少した。先行きは半導体不足などの影響で下振れリスクがあるが、徐々に持ち直しに転じると見込まれる。
- 実質輸出(10月)は2ヶ月ぶりに前月比で増加した。
- 名目賃金(8月)は、6ヶ月連続で前年比で増加しているが、一昨年比では減少が続いており弱い動きがみられる。

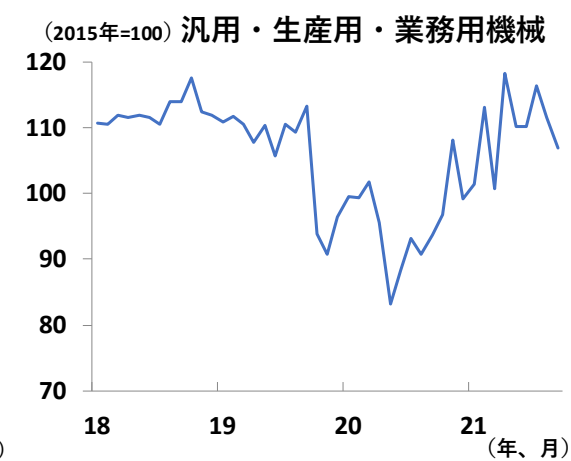
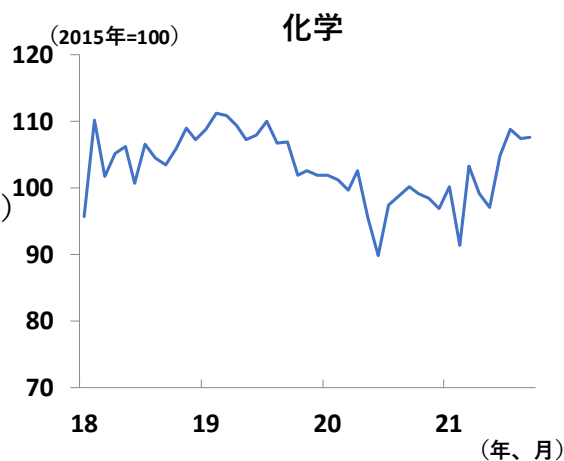
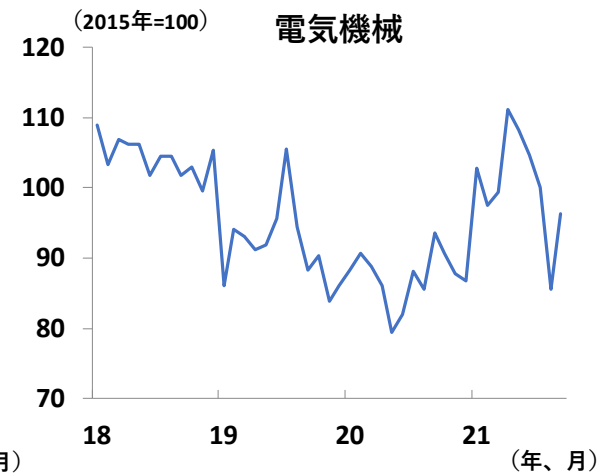
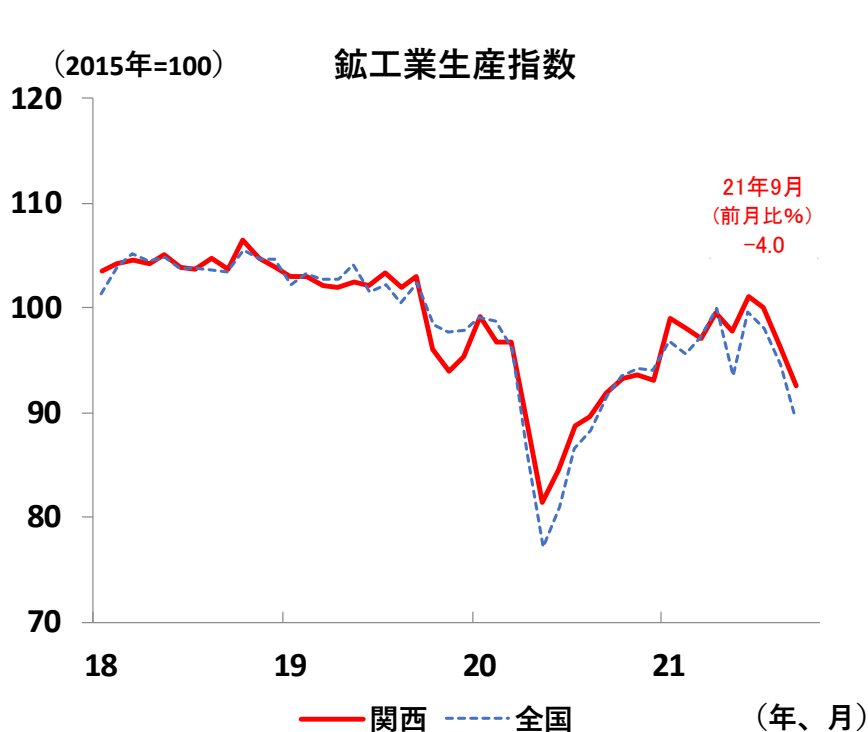
項目	現状
景気全般	持ち直しが一服
生産	足踏み状態
輸出	足踏み状態
設備投資	持ち直しの動きがみられる
雇用	弱い動きがみられる
賃金	弱い動きがみられる(↑)
個人消費	弱い動きがみられる
住宅投資	持ち直しの動きがみられる
公共投資	横ばい圏で推移している

注: ()内は前月からの変化の方向

賃金は、「減少している」から上方修正(↑)

生産

9月の鉱工業生産(関西)は前月比-4.0%と3ヶ月連続で減少。電子部品デバイスなど主要業種で減少した。先行きについては、半導体不足などの影響で加工・組立業種などで下振れるリスクがあるが、徐々に持ち直しに転じると期待される。

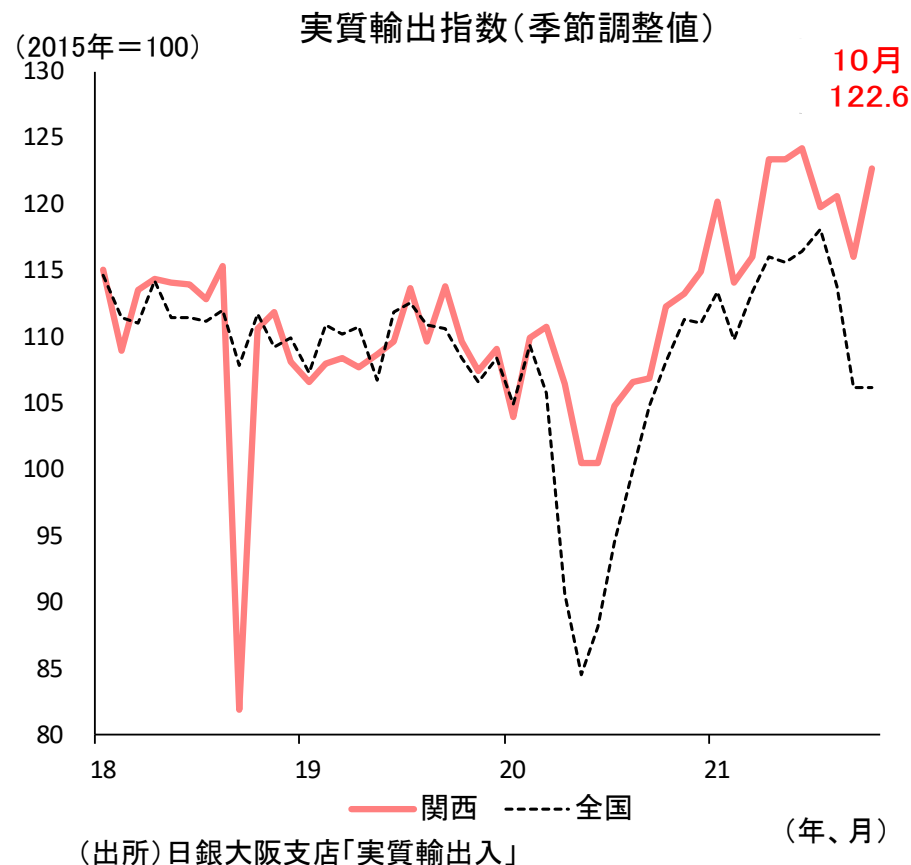
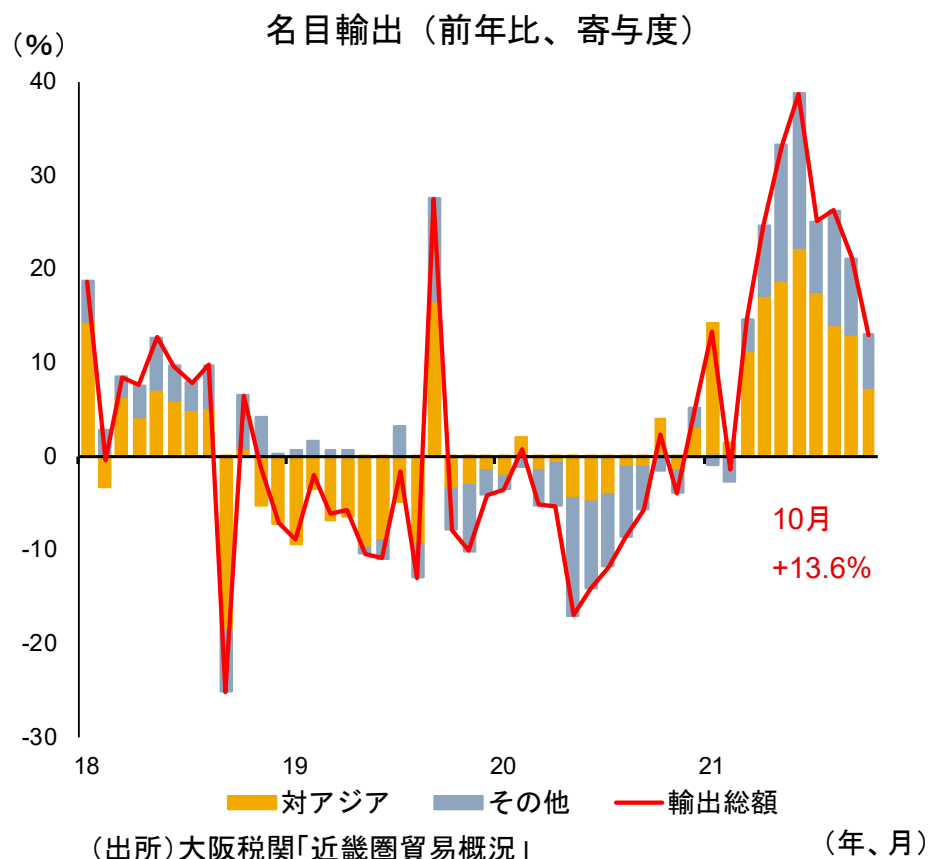


(出所) 経済産業省「鉱工業生産動向」

輸出

10月の名目輸出額は、前年の落ち込みの反動で前年比+13.6%と8ヶ月連続で増加。地域別では、アジア、米国、EU、その他いずれも増加した。品目別では、遊戯用具、建設用・鉱山用機械などが大幅に増加した。

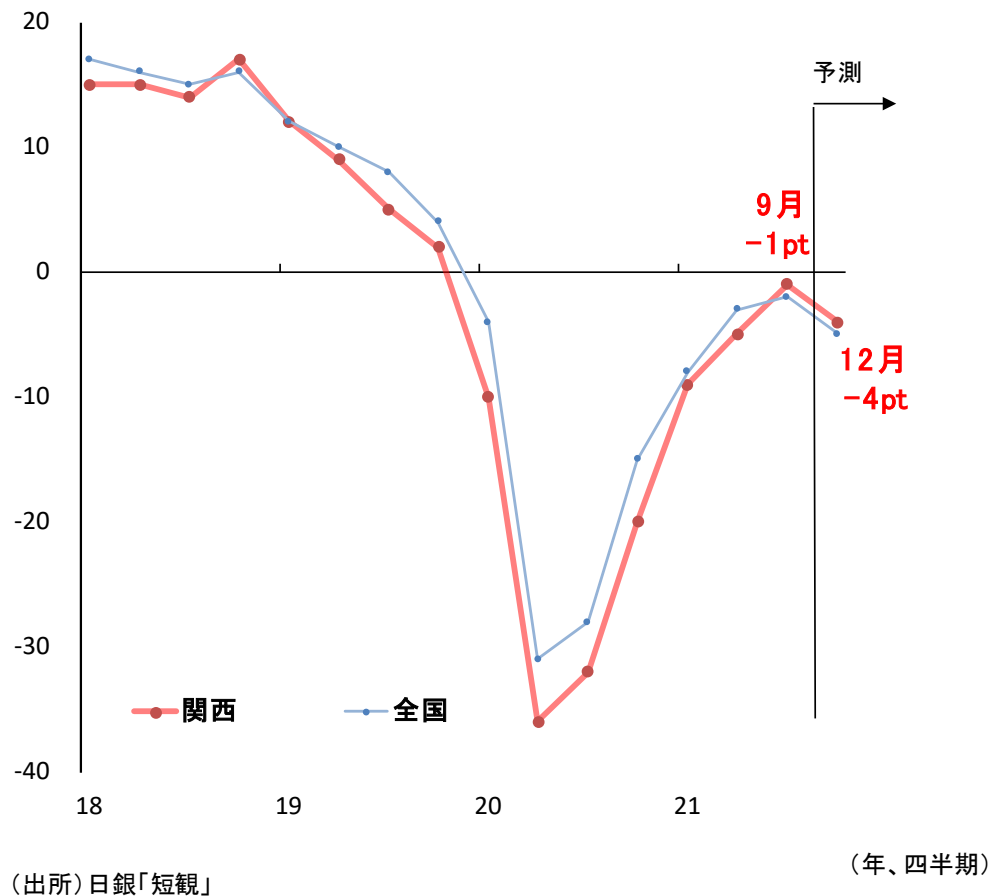
また、10月の実質輸出(季節調整値)は前月比+5.6%と2ヶ月ぶりに増加した。



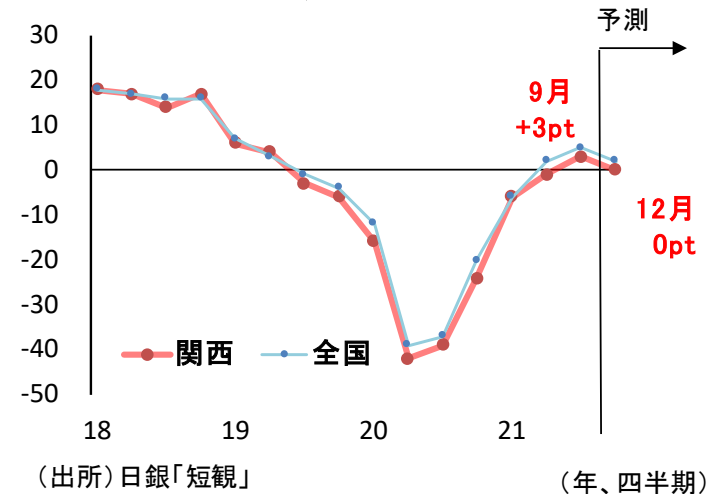
企業景況感(日銀短観) ※以下は10/1公表の9月調査。12月調査は12/13公表予定

日銀短観9月調査の業況判断DIは、コロナ感染が落ち着いてきた中での調査であったため、全産業で-1ptと6月調査から改善。製造業は3pt、非製造業は-6ptといずれも改善した。先行き(12月)については、コロナ感染再拡大や部品不足の懸念から、全産業、製造業、非製造業いずれも悪化が見込まれている。

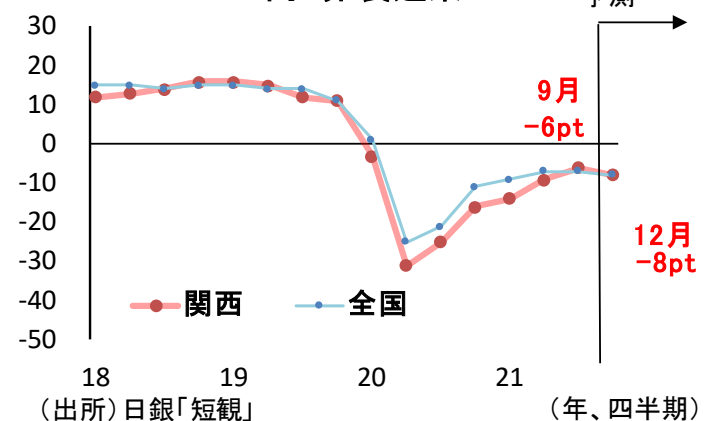
短観 業況判断DI「全産業」



同 製造業

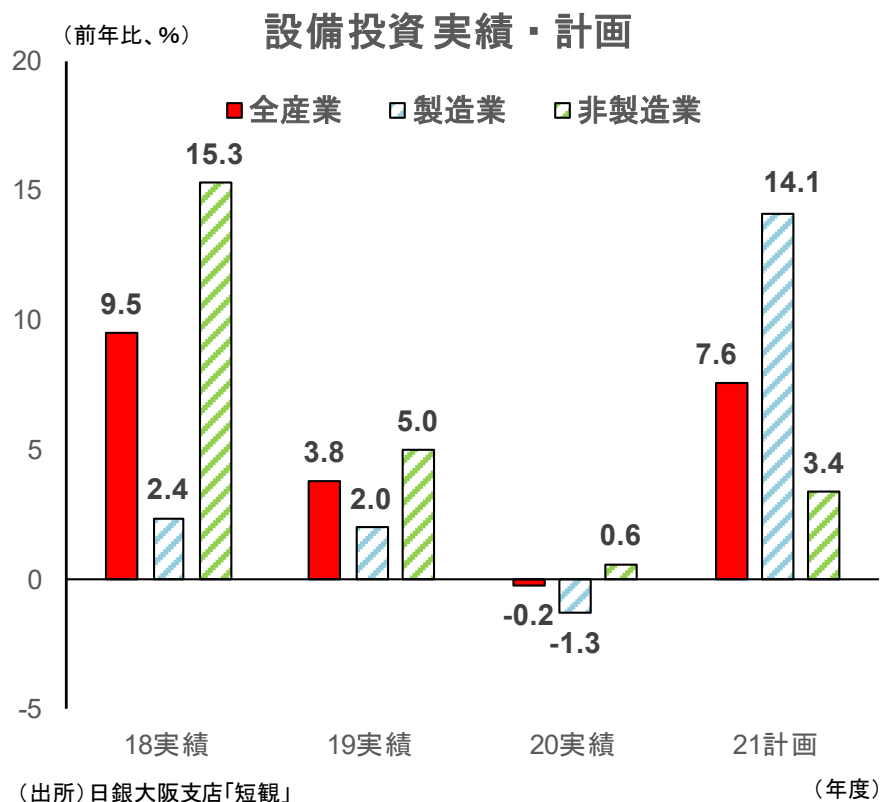


同 非製造業



設備投資※以下は10/1公表の9月調査。12月調査は12/13公表予定

日銀短観9月調査によると、21年度の設備投資(計画)は前年比+7.6%と増加が見込まれている。6月調査時と比べて、製造業は上方修正、非製造業、全産業は下方修正となった。製造業は汎用・生産用・業務用機械が上方修正、非製造業は不動産、小売が下方修正された。



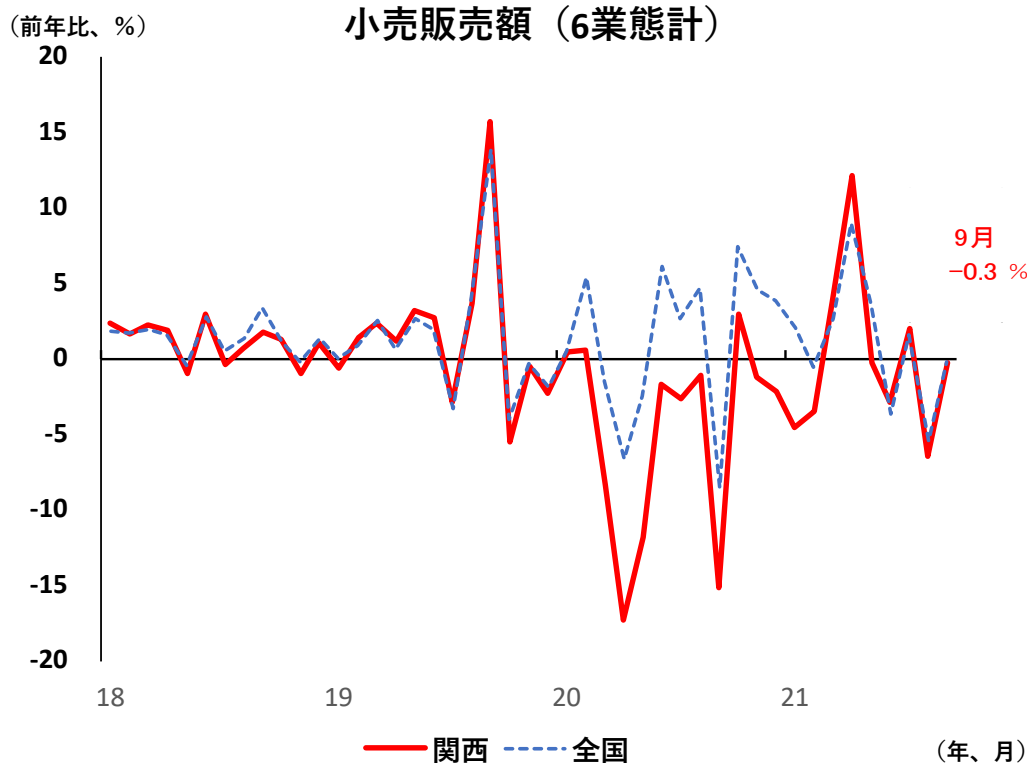
設備投資額(前年比%)

	20年度実績	21年度計画	
		今回	6月調査時 [差異]
全産業	-0.2	7.6	9.4 -1.8
製造業	-1.3	14.1	12.7 1.4
非製造業	0.6	3.4	7.2 -3.8

個人消費(小売売上、自動車販売)

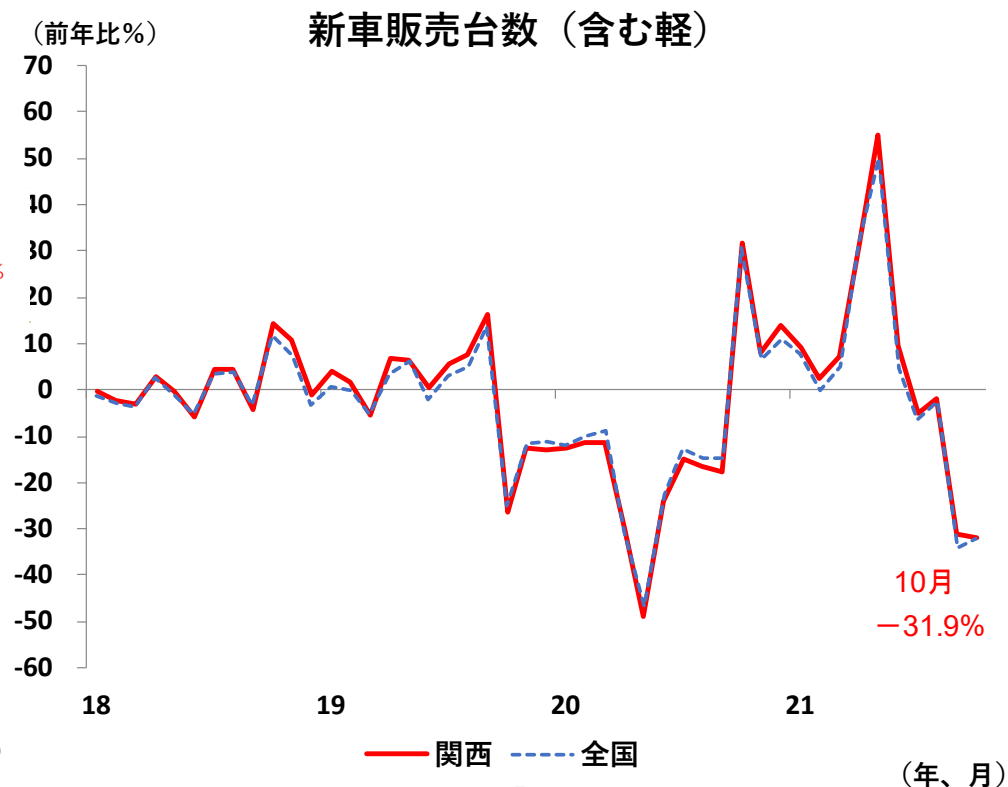
9月の小売販売額は、コロナ感染拡大が落ち着いてきたこともあって前年比-0.3%と減少幅が縮小した(一昨年比では-15.4%)。

10月の新車販売は、部品供給不足による生産調整により、前年比-31.9%と4ヶ月連続で減少。減少幅も9月に続き大幅減となった。



(出所) 経済産業省「商業動態統計」

(注) 百貨店、スーパー、コンビニ、ドラッグストア、家電量販店、ホームセンターの合計

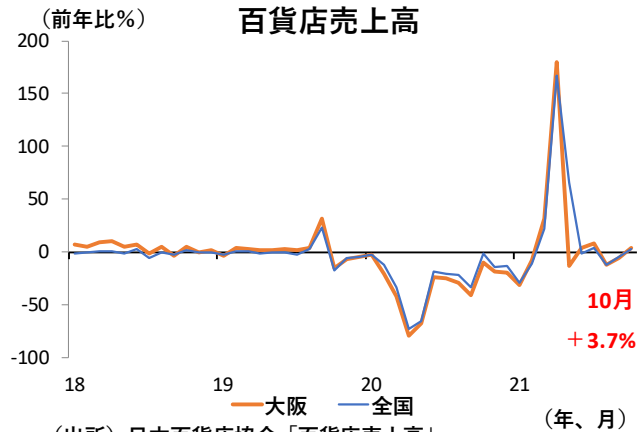


(出所) 日本自動車販売協会連合会「新車販売台数状況」

全国軽自動車協会連合会「軽四輪車新車販売」

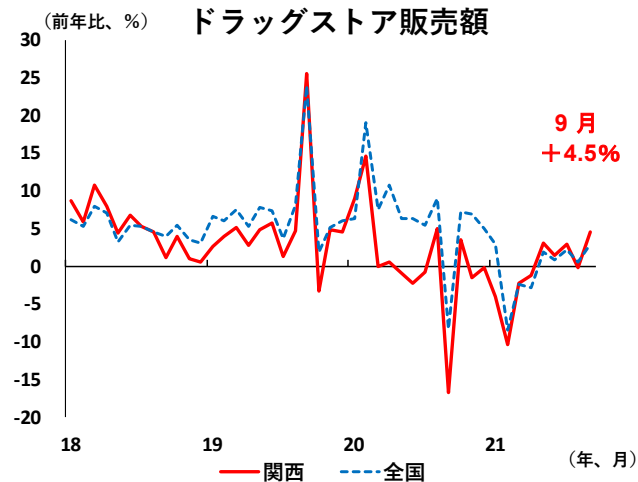
個人消費(業態別)

10月の百貨店売上(大阪)は、緊急事態宣言解除による人流の増加もあって、前年比+3.7%と3ヶ月振りに増加したが、一昨年比では-7.1%と減少が続いている。京阪神免税売上は前年の低水準の反動で同+100.4%の大幅増となったが、水準は低い。

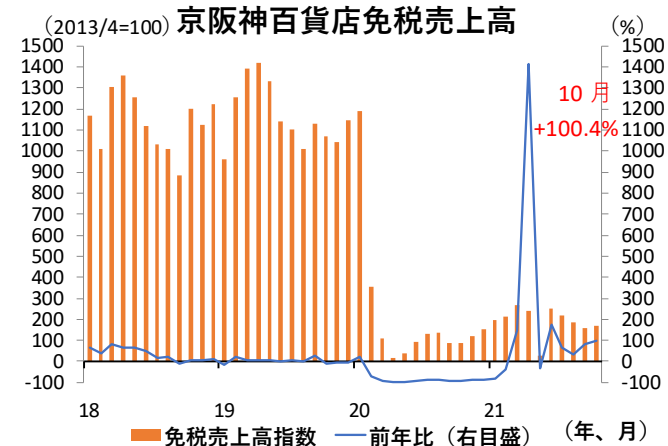


(出所) 日本百貨店協会「百貨店売上高」

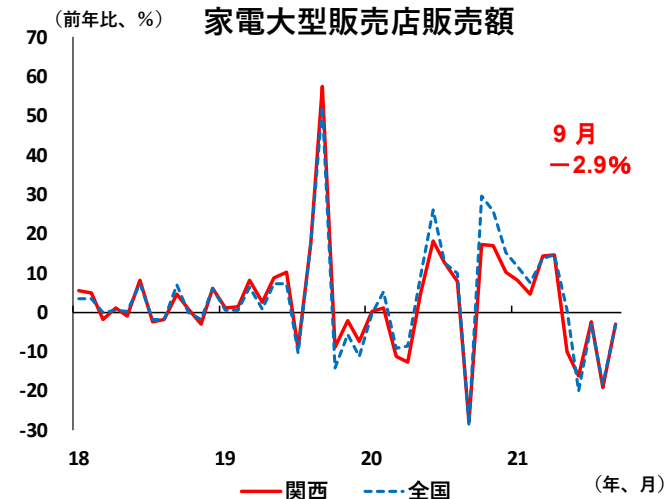
(注) 店舗調整後前年比



(出所) 経済産業省「商業動態統計」



(出所) 日銀大阪支店「百貨店免税売上(関西)」

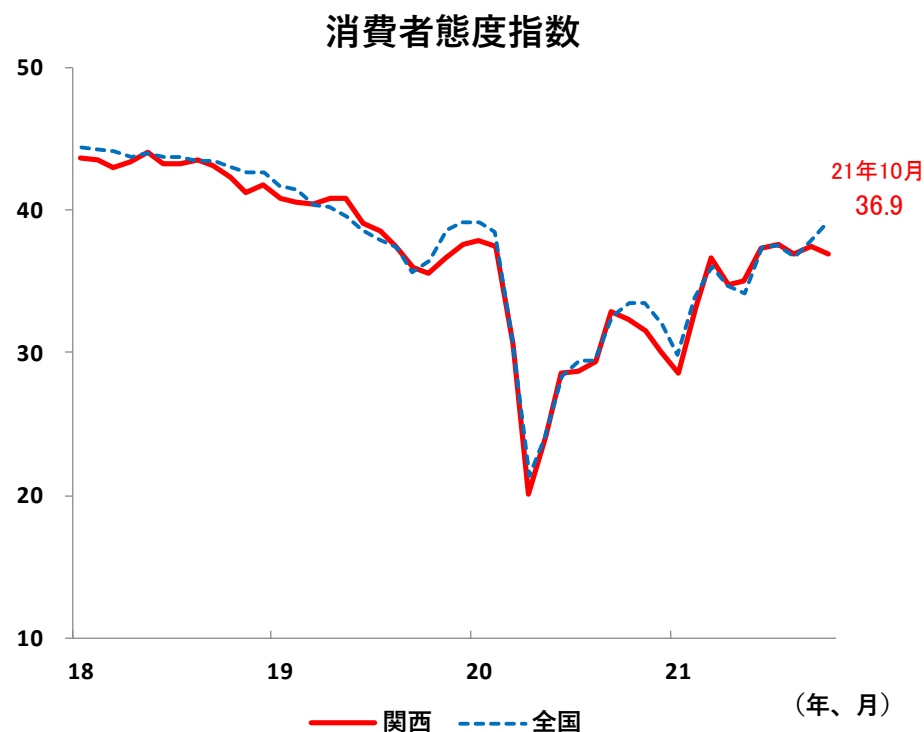


(出所) 経済産業省「商業動態統計」

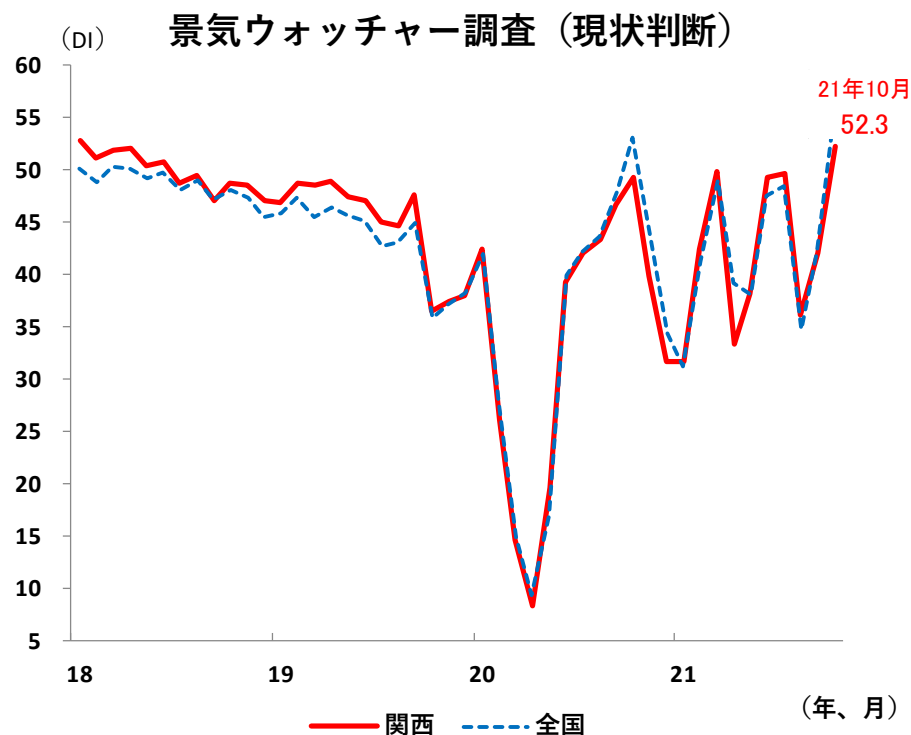
マインド・景況感

10月の消費者態度指数(季節調整値)は36.9と2ヶ月ぶりに低下した。

10月の景気ウォッチャー調査(現状判断DI)は、前月差+10.3ポイントの52.3と2ヶ月連続で上昇した。緊急事態宣言の解除、新型コロナ新規感染者数の減少が景況感の改善につながった。



(注)関西の季節調整値はMURC試算
(出所)内閣府「消費動向調査」



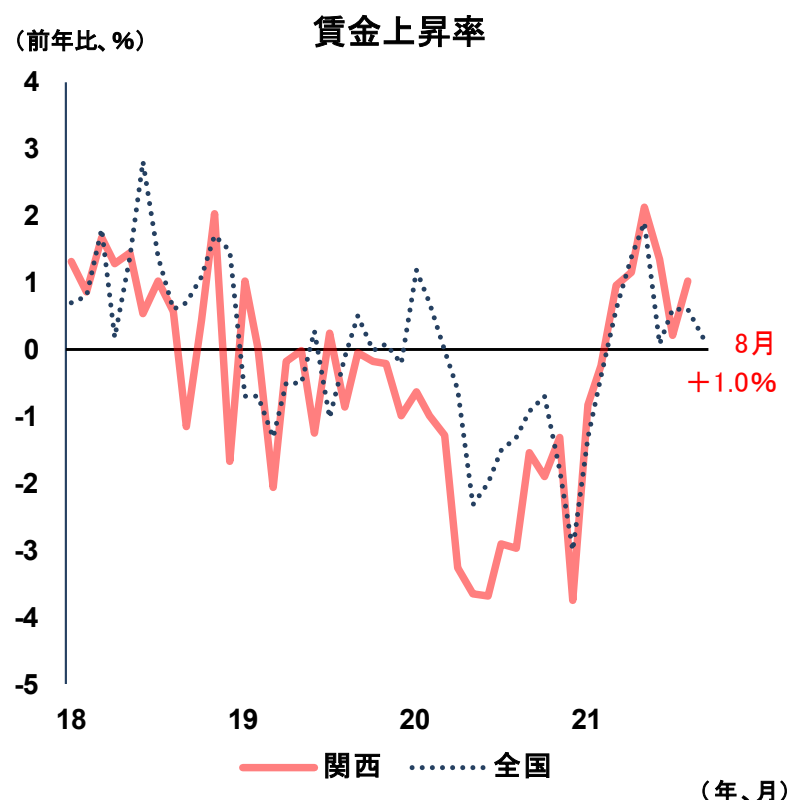
(出所)内閣府「景気ウォッチャー調査」

賃金・雇用

8月の名目賃金指数は、前年比+1.0%と6ヶ月連続で増加したが、一昨年比では-2.0%と減少している。

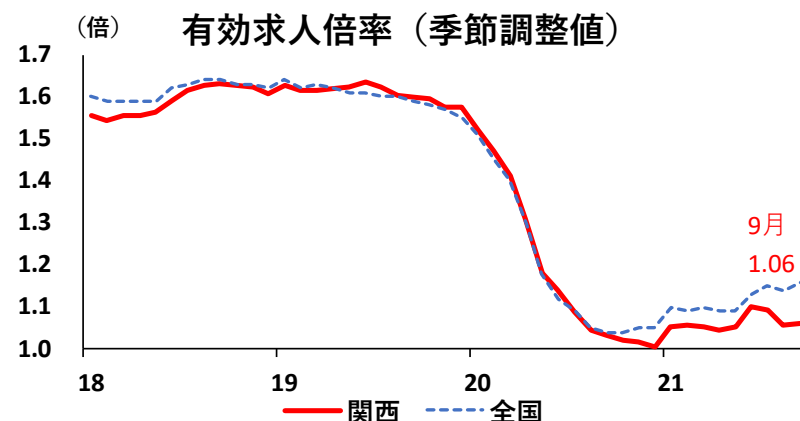
9月の有効求人倍率は1.06倍と前月から横ばい。

21年7-9月期の失業率は3.0%と前期から低下したが、就業者数は減少した。

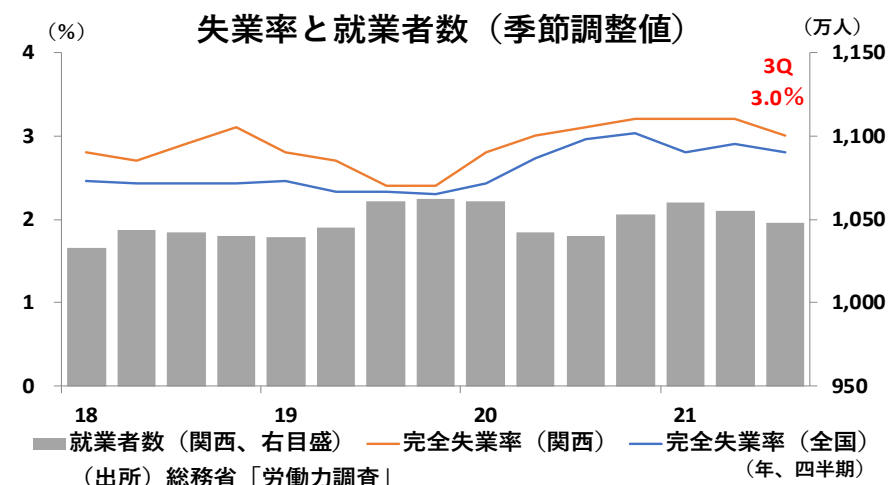


(注) 関西2府4県の名目賃金指数を常用労働者数で按分し合成したもの、MURC試算

(出所) 厚生労働省、各県「毎月勤労統計」

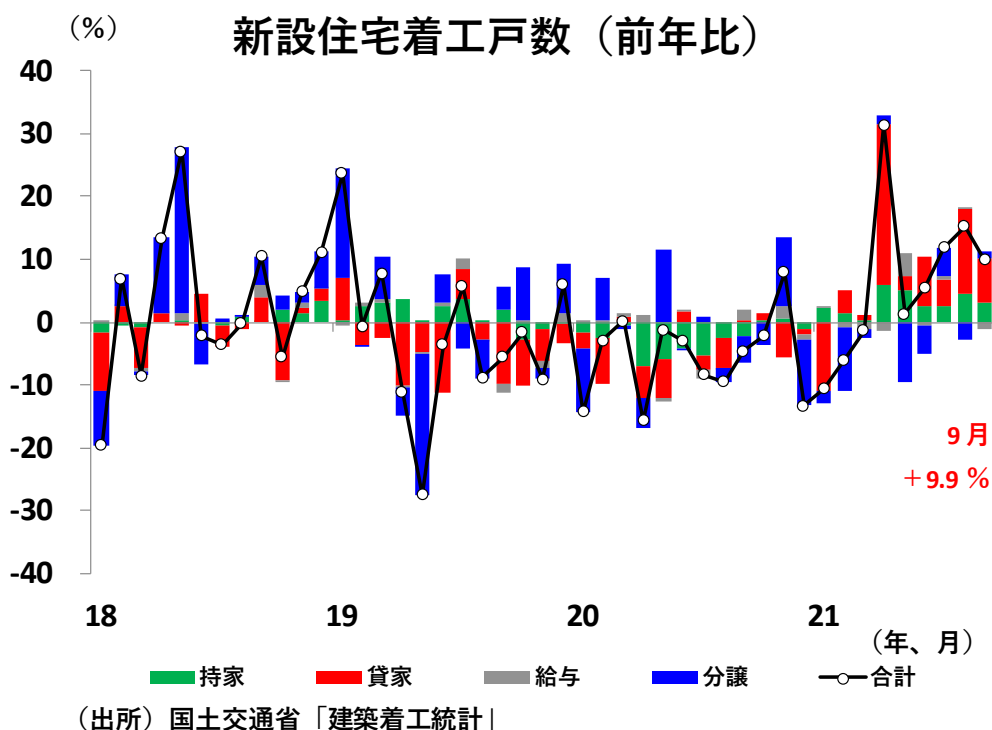
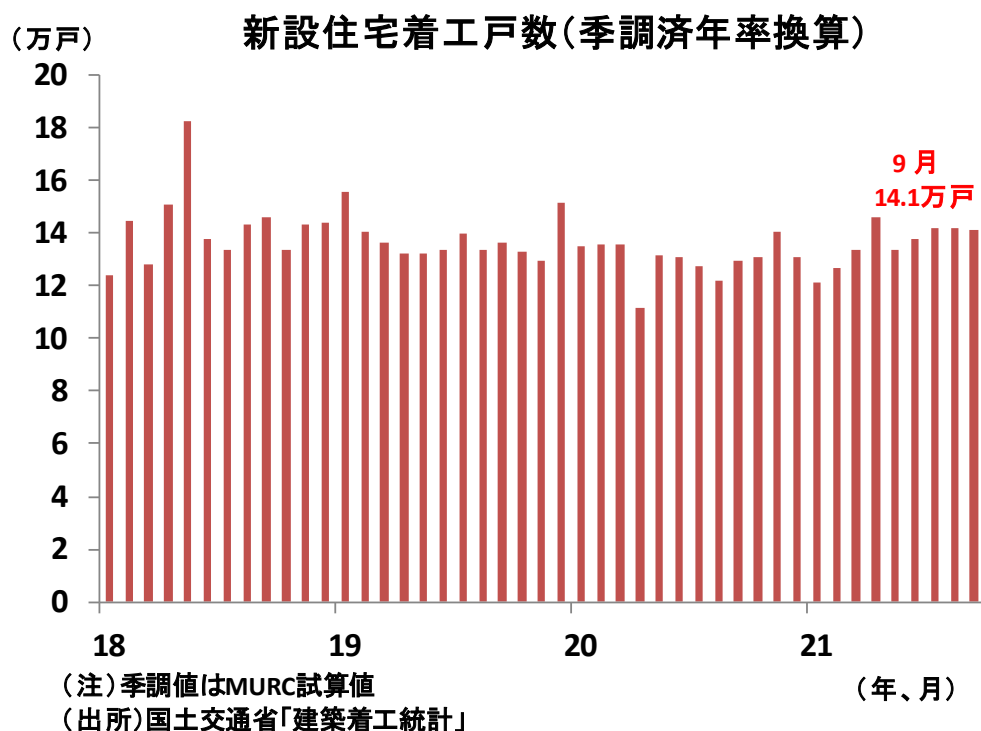


(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」



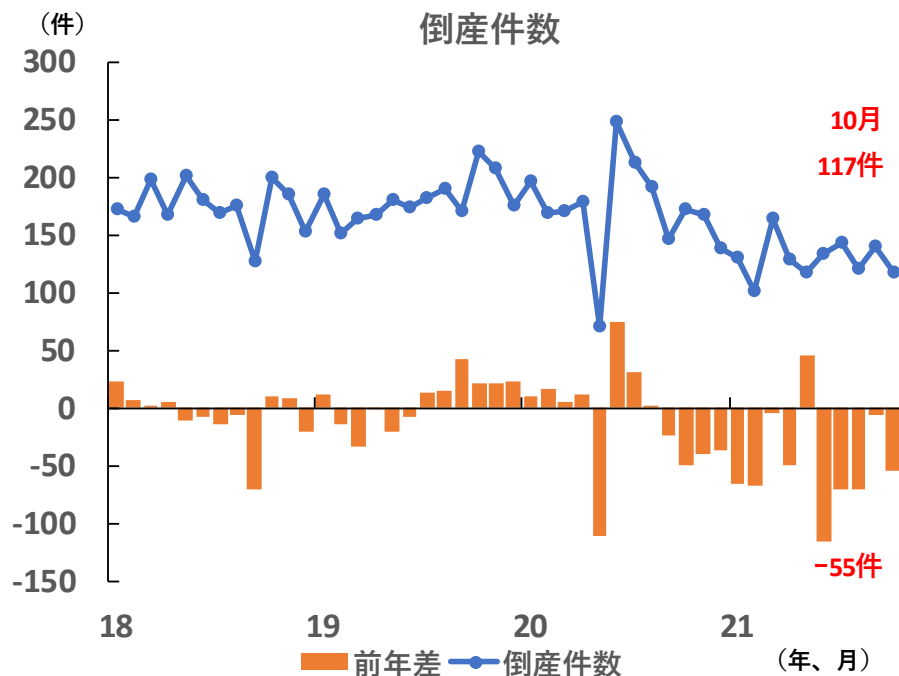
住宅投資

9月の住宅着工は季調・年率14.1万戸、前年比では+9.9%となった。持家、貸家、分譲が増加した。



倒産

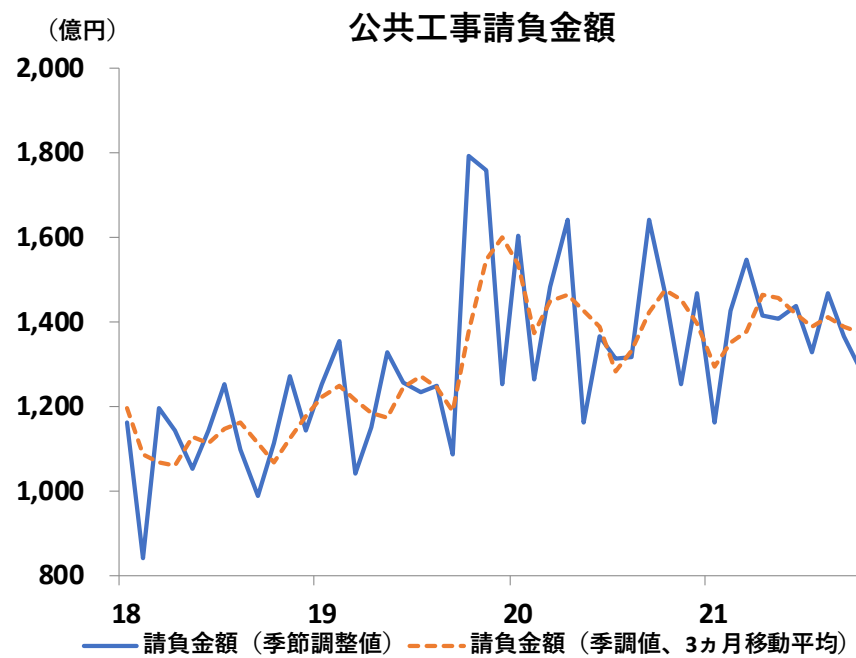
10月の倒産件数は117件と前年を下回り、低水準で推移している。



(出所) 東京商工リサーチ「全国企業倒産状況」

公共投資

公共工事請負金額は横ばい圏で推移している。



(注) 季調値はMURC試算

(年、月)

(出所) 東日本建設業保証「公共工事前払金保証統計」

ご利用に際してのご留意事項を記載していますので、ご参照ください。

(お問い合わせ)調査部 塚田 TEL:03-6733-1626 E-mail:chosa-report@murc.jp

〒105-8501

東京都港区虎ノ門5-11-2 オランダヒルズ森タワー

－ ご利用に際して －

- 本資料は、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください